

出題分析			
試験時間 60分	配点 40点	大問数 4題	
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]		
<p>【概評】</p> <p>例年通り大問数が4題、各10問ずつで全40問の構成であった。出題形式は記述・選択の併用で、記述問題が増加した昨年と比べて今年は2問減少した。選択問題のうち「2つ選ぶ」問題は昨年同様に3問であった。大問のうち前半2題が古代から近世、後半2題が近代から現代の範囲から出題されたが、昨年度見られた原始の出題はなかった。史料問題は昨年度と同様に、近代の人物に関する著作物から引用された。また、内乱の戦場となった場所を西から東へ並べるという珍しい出題も見られた。</p> <p>昨年度よりも記述問題の数は減少したものの、一部細かい知識を必要とする問題が出題されたことから全体としては昨年度と同程度の難易度と言えよう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	交易の歴史	古代～中世の政治・外交・文化を中心とした出題。問4. 敏達天皇と舒明天皇の家族関係をわかっておく必要があった。「う」の遣新羅使の最後は779年のこと。問7. 奄然に関する問題は早大で頻出。問8. やや難。「い」と「え」で迷う。「い」の北条時頼の兄は4代執権の北条経時。教科書本文で取り上げられることは少ない。家系図まで確認できていたかどうか。「え」の藤原頼経の妻は2代将軍源頼家の娘であった。	標準
II	「幕府」の歴史	古代～近世の政治・外交・文化を中心とした出題。問1. 3つめの空欄Aから解答する。問3. やや難。3と5の場所に迷ったかもしれない。西から順に2は長門国で現在の山口県、5は摂津国で現在の兵庫県、3は近江国で現在の滋賀県、1は岐阜県、4は鎌倉で現在の神奈川県。問10. 下線gに「幕府法令を集大成して類別に編纂」とあることがヒント。	標準

設問別講評			
III	井上馨に関する記事 (史料)	井上馨に関する『東京朝日新聞の記事』からの引用で、近代から現代の政治・外交・社会・文化を中心とした出題。問 3. 参与には同じく長州藩の木戸孝允のほか雄藩の志士らが就任した。問 4. いずれも近い出来事の並び替えであるが、幕末の流れを正確に理解できていたどうか。問 6. 問 8. 消去法で解答したい。問 9. 一部の教科書に記載があるが、細かい。問 10. やや難。史料中に「三十一年大蔵大臣辞職」とあることから、井上が大蔵大臣をつとめたのは 1898 年までとわかる。「お」の日本鉄道会社の設立は 1881 年のこと。	標準
IV	昭和～現代の経済の歴史	昭和～現代の政治・経済・外交を中心とした出題。問 1. 難。問 3. やや細かい。問 6. 「え」と「お」で迷うかもしれないが、新経済政策がドルの価値を国際市場の実態にあわせることを目的としていたことから「お」を正文と判断したい。問 8. 難。「え」の新東京国際空港は 1978 年に開港した。下線 d の「1980 年代」という条件に合わないことに気づく必要があった。問 9. 「あ」が誤りと判断できたかどうか。問 10. 世界貿易機関 (WTO) に関する説明であるが、細かい。	やや難

合格のための学習法

早稲田大学法学部の日本史は近代以降が出題範囲の半分を占めるので、早めの対策が肝心である。一方で、難問がいくつか見られたものの、ほとんどは教科書の内容を超えないような標準的な問題であり、すぐに正解にたどり着けなくても設問文や史・資料文を手がかりに解答できる問題もある。したがって、まずは教科書の読み込みを中心に、図録なども活用して体系的な理解に努めたい。その上で余裕があれば、用語集で基本的な歴史語句の説明に目を通しておくと更なる得点アップにつながるだろう。